

堀尾謙介選手



初マラソンで
2020東京五輪
選考レース
出場権獲得

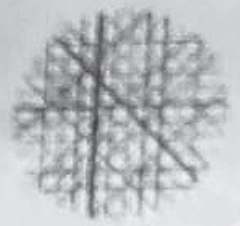


東京メトロ

203

STARTS

東京メトロ



T

中央大学陸上競技部長距離ブロックの堀尾謙介選手(経4)が3月3日に行われた東京マラソンで2時間10分21秒、日本人最高位の5位に入った。自身初のマラソンで2020東京五輪代表選考会出場権を得た。



15*。付近の浅草寺・雷門前を通過する(写真提供=共同通信社)

丸の内のビジネス街を抜け、最後のカーブを左折すると前方に皇居が見えた。東京駅舎をバックに行幸通りに入った。

西新宿の東京都庁前からスタートして、残りは200*。沿道から「堀尾！ 堀尾！」の声援を受ける。ゴールで待つ晴れ着の女性2人が幅広のテープをピーンと張った。

冷たい雨のなか、緊張が続いた。途中で振り返り、後続ランナーの動きを気にしたこともあった。初マラソンで2時間10分21秒。日本人選手トップの成績だ。

ゴール後、6歩進んだところで転倒した。疲労困憊だった。複数の係員に抱きかかえられて引き揚げた。

注目を一身に浴びた記者会見。マイクを持ったニューヒーローは「本当にこれが現実なのか」と静かに話した。

「ダメになっても初マラソンだからいい。行けるところまで行こう。30*。過ぎてても余裕があったので。寒さは大学の練習で慣れています」

マラソンの練習はトップクラスでも、きつくて続ける気持ちがなえそうになるときがある、という。

3年生からマラソン練習を始めた堀尾選手は課題を一つずつこなしてきた。30*。走では規定ゴール後も走り、35*。まで距離を伸ばし

東京マラソン 日本人トップの全体5位



たこともある。「走るのが好きなんです」。不断の努力が、この日、大きな花を咲かせた。

13回目を迎えた大会最多の3万7603人が走った。ランナーを待っていたのは厳しい気象条件だった。間断なく降る雨、スタート時・午前9時10分の気温は真冬並みの5・7度。レース中は同4度台に下がった。

帽子とユニホームを雨と汗で濡らしながら、1キロ3分ペースの第2集団でレースを進め、第1集団の強豪アフリカ勢を追いかけた。20キロで13位と順位を上げ、折り返し地点で日本人2位。37キロ付近で、五輪1万発・日本代表選手を抜いて日本人1位。

低温と寒さで体力を奪われてか、途中棄権や地力を発揮できない選手が相次ぐなか、ユニホームに「C」マークを付けた中大のエースが主役に躍り出た。

MGCは9月15日開催

ラジオ日本の解説を務めた藤原正和・中大駅伝監督も雨には強かった。東京マラソンの2010年大会優勝時(2月28日)も冷たい雨だった。



2時間10分21秒でゴールする堀尾謙介選手。
日本男子トップの5位に入った。
(写真提供=共同通信社)

「雨のなかでも自分の力を出すという指導を堀尾選手に限らず、全選手にしてきました。きょうは練習の成果が出たなと思います」とコメントし、こう続けた。「教え子が結果を出してくれたのは指導者としてうれしいです」

同監督、中大駅伝ブログでは「練習達成率は95%、2時間10分前後かと思っていましたが、まさか日本人トップでゴールとは」と驚愕

の思いをつづった。

来年夏の東京五輪出場をかけた選考会「マラソングランドチャンピオンシップ(MGC)」は9月15日に行われる。MGC出場の有資格者は30人。

身長183センチ、黒縁の眼鏡使用。すぐに彼だと分かる堀尾謙介選手が晴れのスタートラインに立つ。

負けん気見せた
川崎選手





復路ゴール前で デッドヒート

箱根駅伝 中大は総合11位

11位でゴールする中大のアンカー・川崎選手、右は早大・小沢選手
(写真提供=共同通信社)

注目の東京一箱根間往復大学駅伝(箱根駅伝)は1月2、3日に行われ、中央大学は往路12位、復路8位、総合成績11位だった。10位までのシード権獲得に1分16秒及ばず、2020年大会は予選会(10月)からのスタートとなった。

復路ゴール前のビジネス街で予期せぬデッドヒートがあった。神奈川・鶴見から東京・大手町へ区間23・0キロ。22キロ余りを走って1秒を争う展開だ。

中大のアンカーは大会初出場の川崎新太郎選手(経2)。早大は小沢選手(4年)。両選手とも滋賀県出身。郷里の関係者は複雑な思いだっ



1区で快走した中山選手(写真中央)

たろう。川崎選手は一時、左側から抜かれたが、猛ダッシュで抜き返した。

デッドヒートに歩道を埋め尽くしたファンが身を乗りして声援を送った。歩道の後方では背伸び、ジャンプする人も散見された。

川崎選手がわずかに先着して11位。シード権を逃したとはいえ、勝負にかける強い気持ちが伝わってきた。昨冬の1万5000記録会で自己ベストを出し、メンバー入りへ強くアピールしていた。好調な調整は区間6位、チーム3番目の好成績となった。

ゴール後、川崎選手のもとへ駆け

つけたのは1区を走った中山選手(法4)と2区の堀尾謙介選手(経4)だった。

藤原正和監督は「中大のダブルエース」と評する。2人は前年の自らの成績をともに上回った。

中山選手は6位(2018年3区)から2位、堀尾選手が8位から5位へ。堀尾選手は「エースとして譲れないものがある」という。

高校総体、国体、全国高校駅伝と主要大会の経験者。エースが競う「花の2区」を3年連続で任された(2017年は学連選抜)。

中山選手には別の思いがあった。一般入試で陸上競技部長距離ブロックの門をたたき、当初は練習生としてスタ

ートした。入部が叶えられたのは冬だった。

自らの走りが全国の高校生に希望をもたらす。こつこつと練習を重ね、実力をつけていった。「エースは俺だ」との気概がある。レースは1区の区間賞まで1秒差に迫った。

粘り見せた

4年生は復路7区の関口康平主将(理工4)、同9区の苗村隆弘選手(文4)が力走した。

藤原監督は「4年生4人がきっちり仕事をしてくれたことで、長らく遠

ざかっていた中大のいるべき、先頭でのレースができました」と称えた。

復路は8区からの3区間で、区間8位、8位、6位と上位に食らいついた。

「復路でも粘りという、これまで出せてこれなかった部分を示せたのではないかと思います」と同監督は、中大駅伝ブログを通じてコメントを発信した。

通算優勝14回は大会史上最多。巻き返しへ着実に力をつけている。

中継した日本テレビの視聴率は往路(32・1%)復路(30・7%)とも30%を超えた。中継が始まった1987年以降、最高最大の注目度となった。

年々関心が高まる箱根駅伝。川崎選手らが主力となる来シーズン、奪回を目指す中大への関心もますます高まっていく。



堀尾選手(左)は2区で力走

学生記者に なりませんか?

『HAKUMON Chuo』は
中大生が取材・編集する
大学広報誌です。
現在、学部在生を対象に
学生記者を募集しています。

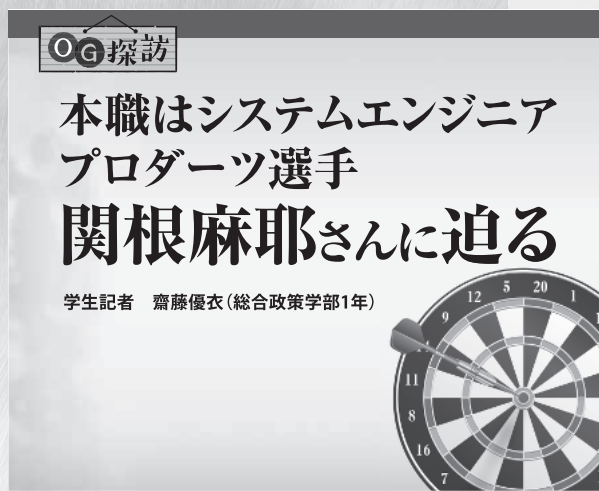
- 元新聞記者のプロや先輩の学生記者に、取材方法・原稿の書き方をはじめ添削指導を受けることができます。将来どんなキャリアを目指すにも文章力が重要です!
- 取材を通して、さまざまな人に出会うことができます。出会いの数ほど思い出ができることでしょう。
- 記者活動を通してコミュニケーション能力など「社会人基礎力」を身につけることができます。



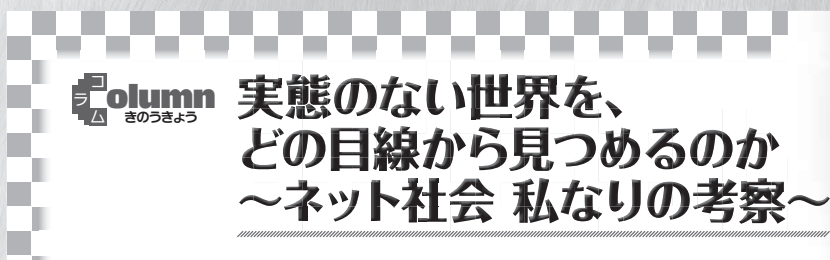
OB探訪
剥製標本、骨格標本を請負製作する
内田晃氏は中大理工学部卒
保存状態良ければ「100年、200年は大丈夫です」
学生記者 片桐将吾(法学部4年)



憧れの報道番組キャスター
中大4年生が日テレ
「news zero」で奮闘中
学生記者 山田 亮太郎(法学部4年)



文&写真
学生記者 津田 翔 (法学部2年)



【お申し込み・お問い合わせ】

中央大学広報室『HAKUMON Chuo』 Phone : 042-674-2048 (直通) E-mail : hc@tamajs.chuo-u.ac.jp